

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：37111

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01397

研究課題名(和文)台湾「原住民運動」前史の生活世界の変容と実践：写真アーカイブスによる人類学的探究

研究課題名(英文) Transformation and practice of everyday life during prehistory of "Yuanzhumin Yundong" (indigenous movement) in Taiwan; Anthropological study through photograph archives

研究代表者

宮岡 真央子 (MIYAOKA, Maoko)

福岡大学・人文学部・教授

研究者番号：70435113

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、台湾のオーストロネシア語族系先住民族である原住民族が1980年代半ばに着手した社会運動「原住民運動」の前史に当たる1960-80年代前半に焦点を当て、生活世界の変容と原住民族による実践を主題とした。生活、生業、土地利用、工芸、信仰、言語を各自の課題に設定し、従前の調査資料と各種アーカイブを活用し研究を進めた。

その結果、原住民族の生活や社会の変化は、国家権力、政策、技術、近隣漢民族、文字表現、観光客、キリスト教宣教師、聖書など多様なアクターが複雑に絡まり合っ引き起こされたものであることとその具体的様相の概要が明らかになった。

これらの成果は論文のほか台湾の国際学会議で発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「原住民運動」前史にあたる原住民族現代史の研究は、政治的タブーも関係し従来少なく、機密文書の公開が進んだ近年に端緒についた。本研究は人類学的観点から当該年代の生活の変容の一端を明らかにしたが、これは「原住民運動」の成立要件の解明に繋がるという意義をもつ。また、アジアで多文化主義政策を先駆的に実現した台湾における原住民族現代史の経験を具体的に明らかにした本研究は、他地域における先住民族の権利回復への道筋や多文化主義実現を考究する研究の参照材料となり得る。また、日本の研究者が当該年代に収集した写真を含む学術資料をアーカイブ化、書籍化したが、これは現地を含む社会一般への成果還元という意義をもつ。

研究成果の概要(英文)： This study focused on the period from the 1960s to the first half of the 1980s, which is the prehistory of the social movement called the "Yuanzhumin Yundong" (Indigenous movement) launched in the mid-1980s by Taiwan's Austronesian indigenous peoples. To explore the transformation and practice of everyday life of the indigenous peoples during this period, we set life, livelihood, land use, craft, Christianity, and language as each issue and conducted research using previous research materials and various archives.

As a result, it is becoming clear that changes in the life and society of indigenous peoples were caused by complex interplay of various actors, including state power, policy, technology, neighboring Han Chinese, character expression, tourists, Christian missionaries, and the Bible. And the outlines of these specific aspects are becoming clarified.

These results were presented at the international conference in Taiwan, in addition to academic papers.

研究分野：文化人類学

キーワード：台湾 原住民族 先住民族 近現代史 アーカイブ 生活変容

1. 研究開始当初の背景

台湾では、原住民族と自称し公称されるオーストロネシア系先住諸民族が求めてきた様々な権利の保障に向けた具体的作業が今日まで漸次進展している。これらは、1980年代半ばに台北で学ぶ原住民族大学生やキリスト教関係者が台湾民主化運動や世界的先住民運動の潮流に呼応して着手した社会運動「原住民族運動」の中間的到達点である。「原住民族運動」の結果として大きく進展した台湾の多文化主義政策は、今日のアジア地域における先進的事例と位置づけられる。

本研究メンバーによる2010-2017年度の科研費共同研究(研究代表者野林厚志、JP22401047、JP26300040)では、今日の原住民族のエスニシティや民族再編の動態が、過去、特に日本統治期の学術研究や政治状況と密接に関わることを実証的に明らかにした。同時に、当時の学術資料が今日有する多様な意義を認識し、それらの発掘・整理・公開にも従事してきた。その過程で、現代の原住民族のアイデンティティやエスニシティについてさらに理解を深めるためには、「原住民族運動」前史にあたる1960-80年代半ばの生活誌の探求が非常に重要だと認識を深めた。戒厳令下のこの時期に関する研究の蓄積はほとんどなく、基礎資料の収集・蓄積も進んでいるとは言い難い。近年政治的タブーが緩和され、この時代の研究はようやく可能となった。他方、世代交代が進むなか、この時代を直接経験した人々への聞き取り調査は急務といえる。

以上から、従来の人類学的原住民族研究の対象外に置かれがちであった国民党政権による開発独裁期、1960-80年代前半に焦点を当て、現地調査に基づく実証研究を目的とする本研究課題を着想した。そして、調査の手がかりとしての写真資料の有効性に着目し、同時代に撮影され日本で私蔵される写真資料の発掘・整理、アーカイブス化をも構想した。

2. 研究の目的

本研究では、1980年代半ばに台湾で「原住民族」と呼ばれるオーストロネシア系先住諸民族が開始した社会運動「原住民族運動」は、いかなる要件で成立したのかという問いを設定した。そして、その解明のために、「原住民族運動」前史にあたる1960-80年代半ばの時期の原住民族の生活世界における変容と実践を主題とし、現地調査を実施し、オーラルヒストリーを集積し、その分析を通して原住民族が社会運動に至る社会環境史及びそこでの原住民族の経験と実践を解明することを目的とした。あわせて、日本で私蔵される未公開写真をアーカイブとして整備し、その活用を通して、現地も含めた公共社会への学術資料と研究成果の還元を目指した。

3. 研究の方法

全研究期間を通じ、新型コロナウイルス感染症の影響で、現地でのフィールド調査が限定された。その代替措置として、研究代表者・研究分担者・研究協力者はそれぞれ従前の調査資料と文献資料を活用し、各自の課題に応じた研究を進めた。また、それと同時に全体的活動として、国内での研究会を年に2回程度開催し、進捗状況を共有するとともに、日本国内に所蔵される関係資料の共同調査も複数機関で実施した。写真資料のアーカイブ化については、協力を得られた研究者2名が過去に行った台湾調査の写真について、デジタル化を実施した。これらを踏まえ、最終年度には国際学会議でパネルを組み全員が報告を行い、台湾の研究者と学術交流し、成果の還元を図った。各年度の全体的な活動は次の通り。

2019年度は、現地調査の準備会合を国内で開催し、全体計画と具体的な研究の進め方を確認し、その深化を図った。また、第12回台日原住民族研究論壇(宜蘭市、宜蘭県史館)にメンバーの大半が参加し、台湾の研究者と情報交換を行った。研究代表者・分担者は各自の研究課題に応じた予備調査をそれぞれ行った。写真資料アーカイブ構築に向けた調査として、研究協力者森口恒一が1972年以降に行った台湾・フィリピン言語調査で記録したアナログ写真約6600枚を、国立民族学博物館「地域研究画像デジタルライブラリ」(DiPLAS)の支援を得て整理し、撮影地点の同定・デジタル化を行った。また、研究協力者小川正恭氏(武蔵大学名誉教授)が1980-90年代に台湾調査で撮影した写真資料の調査を実施した。

2020年度は、全体的活動として2回のオンライン研究会を開き、中間報告や今後の研究計画を検討した。また、第13回台日原住民族研究論壇(台北市、国立政治大学)にオンライン(一部は対面)で参加し、台湾側研究者との意見交換を行った。写真アーカイブ構築の一環として、森口は、自身の写真資料データベースの整理と同定を進めた。宮岡は、小川正恭氏撮影の写真資料約1100点を国立民族学博物館「地域研究画像デジタルライブラリ」(DiPLAS)の支援でデータベース化した。

2021年度は、7月にオンライン研究会を開催し原英子氏(岩手県立大学)を交え写真を研究に用いる方法等を討議した。9月に台湾の国立政治大学原住民族研究中心主催の第14回台日原住民族研究論壇にオンライン(一部対面)で参加し複数名が報告した。12月に北海道大学で研究会を開き、併せてアイヌ史研究の蓑島栄紀氏(北海道大学)を評者に研究分担者田本はる菜の新著合評会を行った。また、北海道博物館と国立アイヌ民族博物館で現代史関係資料と展示方法を共同調査し、後者では館長・研究員らと懇談した。これらによりアイヌ民族の歴史経験や脱植民地化の過程について知見を深め、日台の先住民族の近現代の経験を比較考察する新たな視座を

得た。写真資料のアーカイブ化に向け、森口は自身の写真資料データベースにデジタルカメラ撮影分約 4700 点を追加し、また音源資料 190 点をデジタル化した。

2022 年度は 5 月に国立民族学博物館で第 1 回研究会を、8 月に徳島県立鳥居龍蔵記念博物館で同館研究者を交えた第 2 回研究会と共同調査を行った。12 月には那覇市で角南聡一郎氏（神奈川大学）を招いた第 3 回研究会を開き、沖縄県立公文書館・沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館で共同調査を行った。

期間を延長した 2023 年度は、5 月に一部メンバーが国立民族学博物館でのソースコミュニティによる資料調査に参加した。9 月には成果公開として、第 16 回台日原住民族研究論壇（南投県、国立政治大学原住民族研究センター主催）においてパネル「資料との対話から読み解く台湾原住民族の近現代」を組み、メンバー全員が研究発表し、顧恒湛氏（中央研究院台湾史研究所）、黃國超氏（靜宜大学）をコメンテーターに迎えて討議した。2 月には研究分担者松岡格が主催した国際研究ワークショップ「台湾原住民の身分と現代的課題」に全員参加し、黃季平氏・林修澈氏（国立政治大学）による講演をふまえ討議した。

4. 研究成果

本研究では、本来計画していた現地でのフィールドワークの代替措置として、各種アーカイブを利用して研究を進めた。その結果、1960-80 年代半ばの原住民族の社会変化は、国家権力、政策、技術、近隣漢民族、文字表現、観光客、キリスト教宣教師、聖書など、人のみならずモノや情報を含めた多様なアクターが複雑に絡まり合って引き起こされ、原住民族もそのアクターの一角を占めるといふ様相が次第に明らかになってきた。このことについて、各自の課題に即して明らかになった成果は以下の通りである。

宮岡は、20 世紀後半の原住民族の生活変容を考える際の基点として、まず日本統治期 1930 年代に着目した。この年代にツォウの小規模集落の集団移転、小家族の分立、祭祀空間の統合などの諸政策が複合的・相互連関的に推進され、家と村のあり方が大きく変容したこと、生産性や個を重視する近代的思考に共感する若い世代が出現したことを、従前の調査資料と写真等の各種アーカイブを活用して明らかにした。この成果は台湾で口頭発表し、論文で発表した。そしてこれをふまえ、戦後初期、国民党政権による先住民族政策の空白期において、ツォウの新世代の領袖が、日本統治期に導入された換金作物の栽培や植林などの経済開発を継続し村落開発を推進していたことを、当時の新聞記事や活字化された当事者の記録などから明らかにし、台湾で口頭発表した。これら開発の理念や志向性は 1960 年代以降にも継承され共有されたものと考えられる。これについて実証的に明らかにすることを今後の課題として認識した。

野林は、研究計画全体の目的に沿い、1970 年代から 80 年代にかけての原住民族の生業活動、生計維持の諸実践の解明にアーカイブ分析と現地調査に基づき取り組んだ。アーカイブや文献資料から明らかとなったのは、慣習的な生業活動が生計維持の点において従来の役割を果たさなくなった一方で、外来の技術導入による効率化は必ずしも得られておらず、生計における比重を減少させながら、従来の技術が維持されてきたことである。これは、南部のパイワン、ルカイにおける焼畑農耕、島嶼部におけるヤミ（タオ）の漁撈活動に共通してみられる歴史プロセスであった。これらの知見は学会発表、雑誌論文に加えて、所属する国立民族学博物館の特別展示、企画展示を通して広く一般社会に発信した。

田本は、「原住民運動」以前の原住民族社会の変容について、中北部地域を対象に資源およびジェンダーに関する研究を進めた。とくに、国民党統治下の 1960 年代から 1980 年代に宜蘭県タイヤル、南投県セデックの手織物に生じた装飾図案の変容について、背景や動因を検討した。この時期の手織物には国民党の政治スローガンや漢民族の祝福語（漢字）を装飾として取り入れたものが見られ、これは原住民族社会が置かれていた政治的・文化的抑圧状況にある程度反映したものと考えられる。他方で本研究では、現地での聞き取り調査、1960-70 年代の北部原住民族の織物に関する民族誌的研究を踏まえ、上記の布装飾の変化は、文字を図案に読み替えるなど、原住民族が独自の論理によって主体的に行った実践として捉えうる可能性があることを示した。

松岡は、1980 年代からの「原住民運動」以前における原住民族社会の変化に関わって、土地問題に関する事象をフォローする中で「脱水田化」に注目して調査・研究を進めることになった。戦前の日本植民地統治下で稲作普及が行われたことによって原住民族居住地域に一定の水田が造成されていたが、とくに「原住民運動」の開始に先立つ 1970 年代後半を境に脱水田化が進行した。この脱水田化の進展には、戦後政府による政策が大いに関連していた。例えば松岡が調査したブヌン集落では、このプロセスを通して村の景観が変化し、村を商品作物であるピンロウが取り囲んでいくことになったと考えられる。先住民問題に先立つ社会の動きとしては従来、原住民族居住地域からの人口の流出などが注目されてきたが、それと関連する原住民族社会の段階的变化や、政府による政策の影響などもふまえて丁寧に読み解くべきであることが改めて確認された。

岡田は、「原住民運動」を指揮した台湾原住民族権利促進会の会員のおおよそ 4 分の 1 をプロテスタント台湾基督長老教会の牧師が占めたという点に着目し、原住民族とキリスト教会（主にプロテスタント教会）の関係性構築の背景について調査・研究した。具体的には、1950 年代から 1960 年代に行われた原住民族集落での生活支援物資「救済品」の配給をキリスト教会が中心的に担うに至った経緯と、原住民族運動のなかで提唱されるようになった原住民族神学の根幹

にある「コンテクスチュアリゼーション」という神学思想の水脈を整理した。前者については、米国社会において名声を確立した中国に派遣された宣教師の子女らによって国共内戦期における中華民国への民間援助が主導された結果、キリスト教の他の教派・教団の慈善団体さえもが米国対外援助の民間チャンネルとして重用されたことが明らかとなった。そして、後者の「コンテクスチュアリゼーション」は、日本植民地時代において総督府から教会運営における様々な制約を受けるなかで芽生えた「台湾人キリスト者」としてのアイデンティティ、第二次世界大戦後にポストコロニアル的視点から自らを建て直そうとした世界のキリスト教会の潮流、1979年の美麗島事件を契機に行われた「抑圧からの解放」という福音の台湾社会への適応（読み替え）という3点が相まみえた結果として生まれたことが判明した。同時に、現地の宣教師と信徒指導者の育成を可能とする万人祭司というプロテスタント教会の教理自体が、いわば「台湾市民的ナショナリズム」を生み出す不可欠な動機となって長老教会を政治社会運動への関与に駆り立て、そうではなかったカトリック教会との相違を先鋭化させたことが確認された。

研究協力者の森口恒一は、前半は、自身が1970年代から行った科研費による台湾・フィリピン調査で記録した写真資料について民族学博物館の協力を得てデジタル化し、個々の写真に関する情報の追加を行った。写真の数は1万枚で、その情報書き込みの仕事は現在もなお続いている。一方、後半では過去30年間に森口が科研費で行った台湾・北部ブヌンの調査記録の整理を行い、2023年9月、台湾の国立政治大学原住民族研究センターおよび台湾の国家関係機関である財団法人原住民族語言研究發展基金会などの援助によって、一冊の著作として台湾で刊行した(『臺灣卓群布農族』)。この序文では、日本統治時代に馬淵東一が行った調査報告書を再考し、森口が記録した資料を用いて当該民族の伝説等の内容やそれらの言語学的分析を行った。同書では、日本語、英語、中国語の対訳を付したブヌン語の伝承テキストや語彙を数多く収録した。また本科研によりデジタル化した写真資料も多く掲載し、ブヌン語テキストの音源資料もCDに収録して付録とした。これらにより、現地社会を含む一般社会に対して研究成果を広く還元した。

本研究を通じて実施した国内関係機関の所蔵資料に関する調査データは、今後精査し分析を加えながらまとめていく段階にある。写真資料のアーカイブ化については、国立民族学博物館の協力を得て森口資料と小川資料のデータベース化が完了し、付属するデータの入力や精査を今後も継続して行っていく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 宮岡真央子	4. 巻 27
2. 論文標題 鳥居龍蔵の台湾調査フィールドノート：1900年阿里山行を中心とした予備的考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 台湾原住民研究	6. 最初と最後の頁 71-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮岡真央子	4. 巻 50
2. 論文標題 ツォウの村と家の変容過程：1930年代を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 民族學界	6. 最初と最後の頁 47-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮岡真央子	4. 巻 25
2. 論文標題 書評 笠原政治著『台湾原住民族研究の足跡：近代日本人類学史の一側面』：松明を繋ぎ、道を照らす	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本台湾学会報	6. 最初と最後の頁 180-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Moriguchi, Tsunekazu	4. 巻 7
2. 論文標題 A Study on Special Sounds in Bunun, Taiwan and a Hypothesis of Human Language Development : Contribution of Bunun's "Glottal Affricates" research to human evolutionary studies	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 静言論叢	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/0002000500	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田本はる菜	4. 巻 88(3)
2. 論文標題 オーセンティシティを成形する：台湾における先住民の織りと文化創意産業の事例から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 486-504
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田本はる菜	4. 巻 48
2. 論文標題 台湾先住民セデックと三つの織り機	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 96-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田本はる菜	4. 巻 26
2. 論文標題 書評・本の紹介 ワリス・ノカン著 (下村作次郎訳) 『都市残酷』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 台湾原住民研究	6. 最初と最後の頁 227-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡格	4. 巻 24(1)
2. 論文標題 戦後台湾における可視化と台湾原住民社会の変化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 マテシス・ユニウェルサリス	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡田紅理子	4. 巻 17
2. 論文標題 呼応する教会と神学：台湾のキリスト教会と先住民族からの考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 宣教学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 22-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮岡真央子	4. 巻 25
2. 論文標題 鳥居龍蔵の第5回台湾調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 台湾原住民研究	6. 最初と最後の頁 3-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鳥居龍蔵著・宮岡真央子編	4. 巻 25
2. 論文標題 [資料]台湾蕃人の人種調の方法	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 台湾原住民研究	6. 最初と最後の頁 35-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮岡真央子	4. 巻 25
2. 論文標題 第13回日台原住民族研究フォーラム参加記：コロナ禍、初のオンラインでの対面	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 台湾原住民研究	6. 最初と最後の頁 227-232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野林厚志	4. 巻 177
2. 論文標題 焼畑の生態適応と社会適応--佐々木高明の台湾調査が与える示唆	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 46-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田本はる菜	4. 巻 12
2. 論文標題 書評 Ayami Nakatani (ed.), 2020. Fashionable Traditions: Asian Handmade Textiles in Motion. London: Lexington Books, x+305pp	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 年報人類学研究	6. 最初と最後の頁 285-290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森口恒一	4. 巻 25
2. 論文標題 翡翠の囀る頃：神話、生業、自然とフィリピン資料からのヤミ族の暦の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 台湾原住民研究	6. 最初と最後の頁 54-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi Nobayashi	4. 巻 CL
2. 論文標題 A milestone in the construction of the exhibits in National Museum of Ethnology, Japan: Japan World Exposition & Osaka 70 Expo and its ethnographic collection	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Firenze: Societa Italiana di Antropologia e Etnologia	6. 最初と最後の頁 129-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田本 はる菜	4. 巻 1
2. 論文標題 手工芸開発を出入りする：台湾原住民と織物支援をめぐる協調、対立、無関心	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アイヌ・先住民研究	6. 最初と最後の頁 145-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14943/97171	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森口恒一	4. 巻 96
2. 論文標題 我的布農語研究(私のブヌン族の言語研究)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 原教界(台北: 国立政治大学原住民族族研究中心)	6. 最初と最後の頁 88-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮岡真央子	4. 巻 (23)
2. 論文標題 原住民族実験教育: 台中市博屋瑪国民小学の事例を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 台湾原住民研究	6. 最初と最後の頁 165-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮岡真央子	4. 巻 (21)
2. 論文標題 日本の人類学におけるこの10年の台湾研究(日本台湾学会設立20周年記念シンポジウム「『新たな世代』の台湾研究」)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本台湾学会報	6. 最初と最後の頁 19-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮岡真央子	4. 巻 (23)
2. 論文標題 平野久美子著『牡丹社事件、マブイの行方：日本と台湾、それぞれの和解』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 台湾原住民研究	6. 最初と最後の頁 207-208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮岡真央子	4. 巻 4(1)
2. 論文標題 這十年來日本人類學之臺灣研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 當代日本與東亞研究	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 野林厚志	4. 巻 (36)
2. 論文標題 台湾原住民族パイワン族のアワ利用：社会関係と物質文化を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史と民俗	6. 最初と最後の頁 121-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野林厚志	4. 巻 (171)
2. 論文標題 台湾・タオ族の原住民運動：海の先住民の選択	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 32-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田本はる菜	4. 巻 (23)
2. 論文標題 原住民文化産業の地域的展開：族群を超えた協働に注目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 台湾原住民研究	6. 最初と最後の頁 34-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Moriguchi, Tsunekazu	4. 巻 3
2. 論文標題 An Inquiry into the Connecting-Particle or Linker/Ligature in the Philippine-Formosan Language Group and its Historical Development in the Hesperonesian Language Group	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 静言論叢	6. 最初と最後の頁 59-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00027271	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡田紅理子	4. 巻 (24)
2. 論文標題 「救済品」とキリスト教：米援をめぐるカトリック宣教とアミの入信の諸相	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 台湾原住民研究	6. 最初と最後の頁 3-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田紅理子	4. 巻 54(9)
2. 論文標題 台湾原住民族アミに受け継がれる神棚	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 民具マンスリー	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計47件（うち招待講演 25件 / うち国際学会 25件）

1. 発表者名 宮岡真央子
2. 発表標題 話題提供：祖霊 vuvu との対話の旅路 牡丹郷パイワンの経験からみる遺骨返還
3. 学会等名 国際シンポジウム「台湾出兵・牡丹社事件150年 交錯する日台の視座」台湾出兵・牡丹社事件研究会、早稲田大学台湾研究所（東京）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 宮岡真央子
2. 発表標題 戦後初期ツォウの村落開発：ウォグ・ヤタウヨガナら新世代の領袖の実践と希望を中心に
3. 学会等名 第16届台日原住民族研究論壇、国立政治大学原住民族研究中心（日月潭）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮岡真央子
2. 発表標題 鳥居龍蔵と台湾：同志たちとの協働を中心に
3. 学会等名 国際シンポジウム「鳥居龍蔵と台湾 資料の可能性を探る」徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（徳島）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮岡真央子
2. 発表標題 鳥居龍蔵の台湾調査フィールドノート：第4回調査阿里山行を中心とした予備的考察
3. 学会等名 第五屆族群・歴史與地域社会国際學術研討会、中央研究院台湾史研究所（台北）オンライン発表（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 先住民族の博物館資料のデジタルアーカイブ--国立民族学博物館の台湾資料を事例に
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第7回研究大会企画セッション「『文脈』を伝える-- アジア・アフリカをアーカイブするための方法的探究」沖縄県立図書館（那覇）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nobayashi, A.
2. 発表標題 'The scope of Taiwanese archaeology in the Japanese colonial period: A preliminary examination of its relationship with Japanese archaeology'
3. 学会等名 "Indigenous Archaeology and Cultural Heritage in Asia-Pacific" Institute of Archaeology, National Cheng Kung University (NCKU), Tainan, Taiwan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 日本の初期人類学と鳥居龍蔵--起源探求の方法論への関心
3. 学会等名 国際シンポジウム「鳥居龍蔵と台湾--資料と可能性を探る」徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（徳島）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田本はる菜
2. 発表標題 「読めない布」から「読む布」へ？：台湾先住民と布装飾の視覚言語化をめぐる
3. 学会等名 成城大学民俗学研究所所員例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田本はる菜
2. 発表標題 読まない文字を織り込む：戦後国民党統治下の山地と布装飾の変容（織入不做解釋の文字：戦後國民黨統治下の山地與布織裝飾的變化）
3. 学会等名 第16屆台日原住民族研究論壇、国立政治大学原住民族研究中心（日月潭）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田本はる菜
2. 発表標題 知識を囲い込みながら開く：台湾先住民の知的財産とオープンソース化
3. 学会等名 慶應義塾大学東アジア研究所創立20周年記念公開シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田本はる菜
2. 発表標題 台湾原住民族編織工藝中「文字織紋」再探討
3. 学会等名 川流與溯源：2023 年政治大學USR 永續發展國際研討會（台北）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田本はる菜
2. 発表標題 歓待と台湾原住民族 を考える
3. 学会等名 科研基盤B「現代アジア・オセアニアにおける他者への想像力と歓待の実践知に関する人類学的研究」第2回研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 田本はる菜
2. 発表標題 先住民の伝統知識と持続的発展：台湾の取り組みから
3. 学会等名 東京都市大学世界展開力強化事業 第2回シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 田本はる菜
2. 発表標題 械布が生む「本物らしさ」？：台湾セデック族の服飾品製作と「プリント化」のゆくえ
3. 学会等名 第56回日本文化人類学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山崎幸治、田本はる菜、村上智見
2. 発表標題 北海道大学総合博物館における台湾原住民族ポスター展
3. 学会等名 第15回台日原住民族研究フォーラム、国立政治大学原住民族研究中心（台北）オンライン発表（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田本はる菜
2. 発表標題 エスニック・アートの「作者」は誰か？：台湾原住民族の織物、熟練、オーサiership
3. 学会等名 慶應義塾大学人類学研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田本はる菜
2. 発表標題 「～のようなもの sort of something」としての民族衣装
3. 学会等名 南山大学人類学研究所共同研究「装いの境界領域に関する人類学的研究」第3回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松岡格
2. 発表標題 資料との対話から読み解く台湾原住民族の近現代：南澳郷の事例
3. 学会等名 第16届台日原住民族研究論壇、国立政治大学原住民族研究中心（日月潭）、オンライン発表（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岡田紅理子
2. 発表標題 呼応する教会と神学：台湾のキリスト教会と先住民族からの考察
3. 学会等名 日本宣教会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡田紅理子
2. 発表標題 錯綜する意思：救済品から読み解くアミとカトリック宣教師の交渉
3. 学会等名 第16届台日原住民族研究論壇、国立政治大学原住民族研究中心（日月潭）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 森口恒一
2. 発表標題 台湾原住民研究と人類の言語発達の仮説 ブヌン語の音声研究の成果の人類進化研究への寄与
3. 学会等名 第16届台日原住民族研究論壇、国立政治大学原住民族研究中心（日月潭）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮岡真央子
2. 発表標題 鄒族的村與家的變遷過程 以1930年代為中心（ツォウの村と家の変容過程 1930年代を中心に）
3. 学会等名 第14届台日原住民族研究論壇、国立政治大学原住民族研究中心（台北）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮岡真央子
2. 発表標題 鳥居龍蔵の台湾研究
3. 学会等名 国立台湾史前文化博物館・徳島県立鳥居龍蔵記念博物館国際交流シンポジウム、国立台湾史前文化博物館・徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（オンライン開催）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮岡真央子
2. 発表標題 鳥居龍蔵の台湾調査與其博物館資料新運用
3. 学会等名 国立政治大學109學年度第二學期民族系碩博士生論文大綱・部分章節發表會、国立政治大学（台北）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮岡真央子
2. 発表標題 鳥居龍藏の台灣調查與其資料
3. 学会等名 中央研究院台灣史研究所族群史研究群講論會、中央研究院（台北）（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 台灣原住民族の描かれかた--人類学からの考察
3. 学会等名 東アジア「間文化」第11回研究会、京都大学（オンライン発表）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 日本研究人員對台灣原住民的刀耕火種的看法（台灣原住民の焼き畑農業に対する日本人研究の視点）
3. 学会等名 第14屆台日原住民族研究論壇、国立政治大学原住民族研究中心（オンライン発表）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 分享或禁止：原住民族資料的著作權和數據庫出版的辯論
3. 学会等名 未來與實踐--中部原住民族傳統織布工藝復振交流工作坊、臺中市纖維工藝博物館（臺中）（オンライン発表）（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田本はる菜
2. 発表標題 「読めない」布から「読める」布へ？ 1960-80年代の台湾北部原住民族における布装飾の変容
3. 学会等名 先住民文化研究会、北海道大学アイヌ・先住民研究センター（札幌）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮岡真央子
2. 発表標題 台湾山地先住民の村における新型コロナウイルス感染症のインパクト
3. 学会等名 北海道大学ウェビナー「ポストコロナ時代の東アジア 新型コロナウイルスと変容する社会」、北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院附属東アジアメディア研究センター（札幌市）、オンライン発表（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮岡真央子
2. 発表標題 鳥居龍蔵第一、二次台湾調査：以與 台湾總督府殖産部調査的關係為主（鳥居龍蔵の第1, 2回台湾調査 台湾總督府殖産部の調査との關係を中心に）
3. 学会等名 第13届台日原住民族研究論壇、国立政治大学原住民族研究中心（台北市）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮岡真央子
2. 発表標題 境界をあぶりだす疫病 先住民の視点から
3. 学会等名 第4回台湾事情「疫病と台湾：今と昔」、九州大学台湾スタディーズ（福岡）、オンライン発表（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮岡真央子
2. 発表標題 台湾調査から
3. 学会等名 鳥居龍蔵と現代社会 - その学問と資料の意義を問う、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（徳島）、オンライン発表（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 博物館を通じた台湾原住民族との協働--大学共同利用機関の視点から
3. 学会等名 地方大学における総合的な地域資料の展示公開モデルの構築研究、東北大学（仙台）、オンライン発表（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 海の先住民の生業カレンダー--台湾タオ族の魚食とイモの利用
3. 学会等名 生き物文化誌学会第79回例会「生き物と先住民」、国立民族学博物館（大阪）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 従国立民族学博物館特展「原住民之寶」來思考（国立民族学博物館特別展『先住民の宝』から考える）
3. 学会等名 第13回台日原住民族研究論壇、国立政治大学原住民研究中心（台北）、オンライン発表（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 島嶼社会の魚食と生業複合--台湾蘭嶼とインドネシアハルマヘラの事例から
3. 学会等名 日本民俗学会第72回年会、愛知大学（愛知）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森口恒一
2. 発表標題 我的布農語研究（私のブヌン族の言語研究）
3. 学会等名 第13回台日原住民族研究論壇、国立政治大学原住民研究中心（台北）、オンライン発表（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森口恒一
2. 発表標題 「主題」「主語」の観点から見たフィリピン・台湾諸語と日本語の対照
3. 学会等名 東京外国語大学国際日本研究センター対照日本語部門主催『外国語と日本語との対照言語学的研究』第31回研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 野林厚志
2. 発表標題 写真アーカイブスの可能性を探る：内田勲コレクションに刻まれた台湾の風景
3. 学会等名 写真よ、語れ！台湾と日本 時代と国を超えた民間写真史研究プロジェクトフォーラム（台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター、東京）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田本はる菜
2. 発表標題 儀礼と歓待のあいだ：台湾セデックの共食における規範と不確かさ
3. 学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会、早稲田大学主催オンライン開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Haruna Tamoto
2. 発表標題 Politicization and Reinvention of Indigenous Textiles among the Seediq in Taiwan.
3. 学会等名 The 17th & 18th Annual Conference of European Association of Taiwan Studies, Masaryk University, online. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kuriko Okada
2. 発表標題 Is Inculturation 'the Continuity of Superstition'? : The Challenges among Taiwan Indigenous Amis.
3. 学会等名 The 2nd Annual Conference of the East Asian Society for the Scientific Study of Religion, Hokkaido University, Japan. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森口恒一
2. 発表標題 再論「伝承と歌会儀礼から見たヤミ族の世界観：人の生誕と死後の再来」
3. 学会等名 ヤミ文化研究会フォーラム（慶應義塾大学日吉校舎、東京）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田本はる菜
2. 発表標題 読めない文字を織り込む：台湾セデック族の布装飾の視覚言語化をめぐる
3. 学会等名 民族藝術学会第37回大会、中京大学主催オンライン開催
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田紅理子
2. 発表標題 神の読み替え、世界の読み直し：臺灣原住民族アミのキリスト教への改宗にいたるマイクロストーリー
3. 学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会、早稲田大学主催オンライン開催
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kuriko Okada
2. 発表標題 A Quest for "Authenticity: " Urban Amis' Ilisin and Cultural Representation.
3. 学会等名 2021 International Conference on Culture, Society and Local Revitalization: Theory and Practice. Si Wan College of National Sun Yat-sen University, Taiwan, Online. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計23件

1. 著者名 長谷川賢二、石井伸夫、宮岡真央子、陳俊男、林慧仙、曾于宣、張至善、野林厚志	4. 発行年 2023年
2. 出版社 鳥居龍蔵がつなぐ台湾と徳島の文化交流事業実行委員会	5. 総ページ数 80
3. 書名 令和4年度 文化庁 Innovate MUSEUM事業 国際シンポジウム「鳥居龍蔵と台湾 資料の可能性を探る」講演要旨集（徳島県立鳥居龍蔵記念博物館編）	

1. 著者名 宮岡真央子、松岡格、田本はる菜、野林厚志、岡田紅理子、簡史朗、鄧相揚、森口恒一、野嶋本泰、丹菊逸治、中澤陽子、山本芳美、紙村徹、落合研一	4. 発行年 2023年
2. 出版社 國立政治大學原住民族研究中心	5. 総ページ数 194
3. 書名 第16回台日原住民族研究論壇會議手冊（國立政治大學原住民族研究中心編）	

1. 著者名 Nobayashi, A.	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Switzerland: Springer	5. 総ページ数 226
3. 書名 Indigenous Exhibits at the Museum: A Device of Tourism to Bring Awareness to the General Public. In Pei-Lin.Yu, T.Lertcharnrit and G. Smith (eds.) Heritage and Cultural Heritage Tourism, pp.111-122.	

1. 著者名 Nobayashi, A.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Oxon/NY: Routledge	5. 総ページ数 282
3. 書名 How we can exhibit the “other” culture: The process of understanding Indigenous Taiwanese peoples in a Japanese museum. In Scott E. Simon, Jolan Hsieh and Peter Kang (eds.) Indigenous Reconciliation in Contemporary Taiwan: From Stigma to Hope, pp.228-242.	

1. 著者名 森口恒一	4. 発行年 2023年
2. 出版社 財団法人原住民族語言研究發展基金会	5. 総ページ数 896
3. 書名 台灣卓群布農語：三十年採録の傳承・習慣・歴史・生活	

1. 著者名 宮岡真央子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 415
3. 書名 台湾を知るための72章【第2版】(「第27章 原住民/先住民 誇り高く生きる人々」) 赤松美和子、若松大祐(編)	

1. 著者名 宮岡真央子、渋谷努、中村八重、兼城糸絵(編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 280
3. 書名 日本で学ぶ文化人類学	

1. 著者名 Maoko Miyaoka	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 214
3. 書名 Memories of the Japanese Empire: Comparison of the Colonial and Decolonisation Experiences in Taiwan and Nan'yo-gunto 'Multi-layered Realms of Memory: A Diachronic Study of the Commemoration of the Mudanshe Incident in Taiwan' (Yuko Mio ed.)	

1. 著者名 野林厚志	4. 発行年 2022年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 288
3. 書名 アイヌのビーズ-美と祈りの二万年(「ガラスビーズの伝統と創造--台湾原住民族パイワン」) 池谷和信(編)	

1. 著者名 田本はる菜	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 332
3. 書名 山地のポスト・トライバルアート 台湾原住民セデックと技術復興の民族誌	

1. 著者名 蘆田裕史、藤嶋陽子、宮脇千絵、赤阪辰太郎、朝倉三枝、有國明弘、五十棲亘、小澤京子、落合雪野、香室結美、川崎和也、菊田琢也、北村匡平、高馬京子、西條玲奈、鈴木彩希、関根麻里恵、高橋香苗、田中里尚、田本はる菜、中谷文美、難波優輝、新實五穂、野中葉、平田英子、平芳裕子、水野大二郎、南出和余、村上由鶴、劉芳洲	4. 発行年 2022年
2. 出版社 フィルムアート社	5. 総ページ数 292
3. 書名 クリティカル・ワード ファッションスタディーズ	

1. 著者名 宮岡真央子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 国立政治大学原住民族研究中心	5. 総ページ数 105
3. 書名 第14回台日原住民族研究論壇會議手冊（「鄒族的村與家的變遷過程 以1930年代為中心（ツォウの村と家の変容過程 1930年代を中心に）」）	

1. 著者名 野林厚志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 国立政治大学原住民族研究中心	5. 総ページ数 105
3. 書名 第14回台日原住民族研究論壇會議手冊（「日本研究人員對台灣原住民的刀耕火種的看法（台湾原住民の焼き畑農業に対する日本人研究の視点）」）	

1. 著者名 宮岡真央子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京：勉誠出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 ポストコロナ時代の東アジア（「台湾山地先住民の村における新型コロナウイルス感染症のインパクト」）玄武岩、藤野陽平編	

1. 著者名 宮岡真央子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 徳島：徳島県	5. 総ページ数 60
3. 書名 鳥居龍蔵生誕150周年記念 国際シンポジウム「鳥居龍蔵と現代社会」講演要旨集（「鳥居龍蔵の台湾研究：残された資料の今日的意義」）徳島県立鳥居龍蔵記念博物館編	

1. 著者名 宮岡真央子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 台北：国立政治大学原住民族中心	5. 総ページ数 106
3. 書名 第13回台日原住民族研究論壇手冊（「鳥居龍蔵第一、二次台湾調査：以與台湾總督府殖産部調査的關係為主（鳥居龍蔵の第1, 2回台湾調査 台湾總督府殖産部の調査との關係を中心に）」）	

1. 著者名 Atsushi Nobayashi	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Osaka: National Museum of Ethnology	5. 総ページ数 230
3. 書名 Environmental Teachings for the Anthropocene: Indigenous Peoples and Museums in the Western Pacific (Senri Ethnological Studies 103) 'The Diversity of Taiwanese Indigenous Culture Seen in Bead Products' (A. Nobayashi and S. Simon eds.)	

1. 著者名 野林厚志	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臺中：臺中市纖維工藝博物館	5. 総ページ数 260
3. 書名 消失與重現（「服飾織物重製和博物館」）	

1. 著者名 野林厚志	4. 発行年 2020年
2. 出版社 台北：国立政治大学原住民族中心	5. 総ページ数 106
3. 書名 第13回台日原住民族研究論壇手冊（「從國立民族學博物館特展『原住民之寶』來思考 [国立民族学博物館特別展『先住民の宝』から考える]」）	

1. 著者名 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館・鳥居龍蔵を語る会編、天羽利夫、ラファエル・アバ、齋藤玲子、吉井秀夫、宮岡真央子、吉開将人、佐川正敏、董新林、関雄二、中村豊、岡本治代、高島芳弘、石井伸夫、湯浅利彦、佐宗亜衣子、氏家敏之、橋本達也、石尾和仁、松永友和、大橋俊雄、長谷川賢二、大原賢二、鳥居喬、下田順一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 578
3. 書名 鳥居龍蔵の学問と世界	

1. 著者名 久部良和子編、田名真之、魏徳文、野林厚志、林志興、東山京子、陳偉智、黄智慧、石原嘉人、松田良孝、石垣直、宮岡真央子、山本芳美、佐々木健志、島袋美由紀、呉密察	4. 発行年 2019年
2. 出版社 沖縄県立博物館・美術館	5. 総ページ数 87
3. 書名 台湾 黒潮でつながる隣ジマ：2019年企画展ガイドブック	

1. 著者名 神本秀爾、岡本圭史、安井大輔、山本達也、田本はる菜、高村美也子、藤井真一、河野正治、清水貴夫、吉田早悠里、中尾世治、河西瑛里子、山内熱人、溝口大助、山野香織、高田彩子、宮本聡、菅沼文乃、大津留香織、小西賢吾、中屋敷千尋	4. 発行年 2020年
2. 出版社 集広舎	5. 総ページ数 312
3. 書名 マルチグラフィト	

1. 著者名 藤野陽平、奈良雅史、近藤祉秋、堀田あゆみ、モリカイネイ、小林宏至、市野沢潤平、大道晴香、田本はる菜、塚原伸治、吉田ゆか子、飯田卓、櫻田涼子、高山陽子、久保明教、原知章	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 280
3. 書名 モノとメディアの人類学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>展示会 国立民族学博物館 特別展「先住民の宝」会期：2020年10月1日（木）～12月15日（火）会場：国立民族学博物館 特別展示館 国立民族学博物館 企画展「焼畑 佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」会期：2022年3月10日（木）～ 2022年6月7日（火）会場：国立民族学博物館 本館企画展示場 催し物 国立民族学博物館 教育普及活動「台湾原住民運動40年 「高山青」から移行期正義まで」（野林厚志）日時：2022年4月3日（日）14：30～15：00、場所：国立民族学博物館 第5セミナー室 国立民族学博物館 教育普及活動「台湾原住民族と焼畑農耕」（野林厚志）日時：2022年4月3日（日）14：30～15：00、場所：国立民族学博物館 第5セミナー室</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	野林 厚志 (Nobayashi Atsushi) (10290925)	国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・教授 (64401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田本 はる菜 (Tamoto Haruna) (20823800)	成城大学・文芸学部・専任講師 (32630)	
研究分担者	松岡 格 (Matsuoka Tadasu) (40598413)	獨協大学・国際教養学部・教授 (32406)	
研究分担者	岡田 紅理子 (Okada Kuriko) (70802502)	ノートルダム清心女子大学・文学部・講師 (35305)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	森口 恒一 (Moriguchi Tsunekazu) (10145279)	静岡大学・人文社会科学部・名誉教授 (13801)	
研究協力者	小川 正恭 (Ogawa Masayasu) (90086926)	武蔵大学・社会学部・名誉教授 (32677)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 第16届台日原住民族研究論壇	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 国際研究ワークショップ「台湾原住民の身分と現代的課題」	開催年 2024年～2024年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関

その他の国・地域 台湾	国立政治大学原住民族研究中心			
-------------	----------------	--	--	--